

第22回関西大学先端科学技術シンポジウム講演集

原稿作成要領

1. 原稿の標準形式（マイクロソフト社 Word 使用）は、以下の通りです。

- (1) 言語：日本語または英語
- (2) 用紙：A4 サイズ、縦長、横書き
- (3) 余白：上余白 25 mm、下余白 30 mm、左余白 20 mm、右余白 20 mm
- (4) 文字：10 ポイントの全角文字を標準とします（英文字・数字は半角でお願いします）。
本文には MS 明朝体（英数字は Times New Roman）、文中の見出しには MS ゴシック（英数字の場合は Arial）を使用してください。
※指定フォント以外の特殊文字（ α , β 等ギリシャ文字など）や記号を使用されま
すと、正しく表記されない場合がありますのでご注意ください。
- (5) レイアウト：講演タイトル、発表者（共同研究者）、所属、概要は 1 段組・中央寄せ、本文
は 2 段組です。

・1 頁目の 2 行目に講演タイトル（MS 明朝 14 ポイント）、題目から 1 行空けて
氏名（MS 明朝 12 ポイント）、氏名の次の行に所属（MS 明朝 12 ポイント）を書
き、2 行空けて 10 行以内の概要（英文、和文どちらでも可）を書いてください。

・本文は、概要からさらに 2 行空けて 2 段組とし、文字数は 1 段あたり 21 字
程度（英文は 44 字程度）、行数は 1 頁あたり 45～46 行でお願いします。

⇒ 添付の「原稿見本」をご参照ください。

原稿フォーマットはホームページに掲載しております。

URL:<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/symposium/index.html>

2. 原稿作成上の留意点

- (1) 講演タイトルは、プログラム申請されたタイトルをご記入ください。
(やむを得ず変更される場合は、下記問い合わせ先まで必ずご連絡ください。)
- (2) 原稿の長さは、図を加えた状態で、1. の標準形式 2～4 ページ以内で作成し、Microsoft 社
の Word データをご提出ください。
- (3) 原稿を Word 以外のソフトで作成の場合は、お手数ですが作成前に別途ご相談ください。
※ 使用ソフトはドキュメントソフトに限ります。Powerpoint、LaTeX 等は、基本的に受付けてお
りませんので、ご了承ください。
- (4) ご提出いただいた原稿は、先端科学技術推進機構グループにて体裁等修正させていただく
場合がございますことを、予めご了承ください。

3. 原稿締切

2017年11月10日（金） ※提出は、電子データを下記メール宛にご提出願います。

4. 原稿提出先および問い合わせ先

先端科学技術推進機構グループ（担当：宇都）

Tel：06-6368-1178 Fax：06-6368-0080

E-mail：sentan@ml.kandai.jp

原稿見本

文章は、Wordにて作成してください。
Word以外のソフトにて作成の場合は、事前にご相談ください。
※フォーマットをホームページに掲載していますのでご利用ください。
<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/symposium/index.html>

新エネルギーの開発と未来

↑ ↓ 1行空ける

←タイトル：(プログラム申請名)
MS 明朝 (Times New Roman) 14pt

関大 太郎*1、千里山 花子、先端 進歩*2
*1 関西大学 システム理工学部 機械工学科

←発表者名(共同研究者名)：
MS 明朝 (Times New Roman) 12pt

所属：
MS 明朝 (Times New Roman) 12pt

*2 先端株式会社 特別研究員

↑ ↓ 2行空ける

Abstract: (和文の場合は**概要:**) In order to make a precise experiment in vitro for simulating blood flow in vivo, we have been using a high concentration suspension of alginic acid gel particles in both water and physiological salt solution as a model blood. Real blood is a non-Newtonian and . . .

概要 (abstract) は、和文または英文にて 10 行以内で
ご記入ください。
フォント：MS 明朝 (英数 Times New Roman)

↑ ↓ 2行空ける

1. はじめに ←見出し：MS ゴシック 10pt

新エネルギーの開発は、日本の国家戦略上最重要事項の一つである。最近の日本のエネルギー事情は、 . . .

本文は、和文または英文にて 2 段組 4 ページ
以内で作成してください。
フォント：MS 明朝 (英数 Times New Roman) 10pt

2. 実験結果

新エネルギーの熱量を以下の方法にて測定した。まず、エネルギー量測定器具として、XPLD を用い、300 °Cにて 10 時間測定を行った。 . . .

3. 今後の展望

わが国におけるこれからのエネルギー事情は、ますます . . .

↓ 文献記載例

(著者名, タイトル, 掲載誌, 巻(号), ページ(発表年).)

参考文献

- (1) Y. C. Fung, H. Senriyama, S. Sentan, New Energy Control, J. Energy, 50(34), 49-53(2015).
- (2) 関大太郎, 千里花子, 新しいエネルギーとその使用用途, エネルギー展望, 4(45), 112-132 (2014).

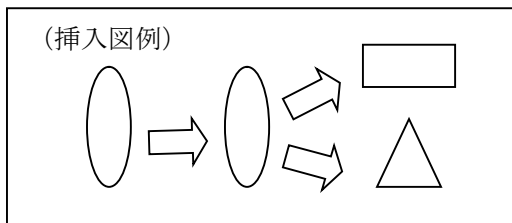


図 1 日本のエネルギー事情

↑ 図表を挿入する場合はデータ上に直接挿入していただくか、挿入場所を「図(表)XX 挿入」と記載の上、図表データ (JPEG) を文章データに添えてご提出ください。
(図表挿入後 4 ページ以内に収まる文書量で本文を作成してください。)